

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校

4/8

第2号

文責 上田

学校教育目標 「心豊かに探究心をもち、未来へ歩み続ける生徒を育成する」

令和2年度 第72回入学式

4月7日(火)に、ご来賓や保護者の皆様にご臨席いただき、第72回入学式を挙行しました。129名の新入生が、新しい制服姿で校門をくぐりました。新入生は、引き締まった表情で希望に満ちた姿を見せてくれました。式は、厳粛な雰囲気の中にも温かさを感じるものでした。

式辞の一部を以下に載せておきます。



今、そのスタートラインに立っている皆さんに、三つのことをお話しします。

まず、一つ目は「高い志をもつ」ということです。

南アフリカの元大統領、ネルソン・マンデラ氏は、「成功するために大切なのは、どこから始めるのかではなく、どれだけ高く目標を定めるかである。」と教えてています。

夢や目標なくして、中学校の三年間は、充実したものにはなりません。中学校卒業後の将来を見据えて、勉強にも部活動にも、高い目標・高い志をもち、それぞれの夢の実現に向けて前進してください。二つ目は「自分を鍛える」ということです。

中学校では、「教えてもらう」から「自ら学ぶ」へと変わらなければなりません。授業でも家庭学習でも、与えられるのを待っていては、前に進むことはできません。難しくても、つらくても、やるべき事をやらなければなりません。自分を甘やかさず、常に厳しく、学び続ける姿勢が大切です。

南方の暖かい地域で育った樹木は、木に締りがなく、木材としての評価は低いとされます。気温が高く雨の多い気候は、木が育つ条件として、恵まれ過ぎているからです。一方、日光が乏しく、厳しい寒さに直面する北国の樹木は、木が締り、良質の木材に成長します。

人もまた同様です。難しいこと、苦しいことに出会ったら、自分を鍛えるチャンス、一段と成長するチャンス、と前向きに考えてください。そして自分を鍛えることを通して、学ぶことの厳しさを感じ、学ぶ喜びを味わってください。

三つ目は、「挑戦する」ということです。

登山家である竹内洋岳さんは、日本人で初めてヒマラヤの高さ8000mを超える一四の山を全て制覇するという偉業を成し遂げた人です。幾度となく、雪崩にも遭い、意識不明にもなり、奇跡的に救出されるという体験もしながら、それでも、山を目指し続けて悲願を達成したのです。

竹内さんは「必ず登れると分かっていれば登る必要はない、と私は思っている。この山には登れないかもしれないが、登るためにはどうすればいいのだろう。これを考えるのが最もわくわくして、登山のおもしろいところです。」と、述べています。

皆さん、学ぶ意欲や伸びていこうとする気持ちをもち、何事にも挑戦し続ける中学校生活を送ってください。

「高い志をもつ」「自分を鍛える」「挑戦する」という気持ちを持って、双ヶ丘中学校の生徒として歩み続けてください。

就学援助制度について

京都市では、お子達が市立小・中学校へ通学するにあたり、経済的な理由により、お困りの保護者に対して、学用品費や給食費などを援助する就学援助制度を設けています。

申し込みの手続きやご相談・ご質問がある方は、学校までお申し出ください。